



## 師走の元気な過ごし方！

副校長 地平 憲司

11月19日に開催した「学芸会」は、鑑賞いただいた多くの方から好評を得ることができました。「創造性を養い、表現力を伸ばし、情操を豊かにする」という学芸会の目的達成に向けて、それぞれの学年がめあてと計画を立てて練習に励み、当日は最高の演技を披露することができました。学芸会で培ったものを今後の学校生活に反映させていくことがこれからの大きなめあてとなります。三年に一度の貴重な経験と思い出が、子供たちの成長の糧となるよう、より一層取り組んでまいりたいと思います。

さて、早いもので令和4年も「師走」となりました。「師走」の由来は、「お坊さん（師匠）がお経をあげるために東西を奔走する月」という説が有力です。また、昔は、13日を「正月事始め」とし、一年の汚れを落とす「すす払い」や「門松」の準備が行われ、それが現代の「大掃除」へとつながったとのことです。浅草寺や仲見世が正月に向けて準備していく様子を身近で味わえるのは、田原っ子にとってとてもよいことだと思います。

二十四節気の「冬至」を迎える22日からは、「冬至冬中冬始め」といって、厳しい寒さが始まります。そこで、旬を迎える「柚子」を浮かべた「柚子湯」にゆっくり浸かることで、風邪をひかず元気に冬を越せるという習慣が生まれました。また、冬至に南瓜（かぼちゃ）を食べる習わしは、「ん」のつくものを食べて、「運盛り」することなのだそうです。野菜が少ない冬に、保存のきく南瓜を食べて栄養を摂る先人の知恵ですね。子供たちには、その他にも、だいこん、れんこん、にんじん、こんにゃくなど「ん」のつくものをたっぷり食べて、寒さに負けない体をつくってほしいと思います。

そして、12月24・25日は、子供たちが楽しみにしている「クリスマス」です。「キリストの生誕を祝う日」ですが、古代ローマ時代の「冬至祭」が「クリスマス」の始まりという説もあるようです。また、子供たちが心待ちにしている「サンタクロース」ですが、アメリカの漫画家が「かつぶくのよい白いヒゲのおじいさん」を描いたものに、あの超有名な飲料会社が赤白を基調にした服を着せたことからイメージが定着したようです。

一つのイベントや習慣にもいろいろな由来がありますね。子供たちのワクワクする気持ちが高まる年末年始、一年の出来事、自分たちの「成長」をゆっくり振り返ることができるよう残り一か月をしっかりと過ごさせたいと思っています。ご支援・ご協力の程よろしく申し上げます。

## 生活指導部より

生活指導部 高橋 浩之

11月の生活目標は『友達と仲良くしよう』でした。各学年の子供たちは学芸会に向けての取り組みを通して、友達やクラスの仲を深める様子が見られました。目標に向かって学年の心を一つに努力し、成功した経験をこれからの学校生活に活かし、より楽しい学校生活が送れるようこれからも声をかけていきます。

12月の生活目標は「清潔な生活を心がけよう」です。行事で忙しく、休み時間の後、手洗いをせず教室に入っていく子供たちの様子も見られます。外で遊んだ後や給食を食べる前には、必ず手洗いをするよう声をかけ、コロナウィルスやインフルエンザなどの病気に負けない生活を送れるよう指導していきます。